

全員集合一ツ、 元気だよー

山形支部 岸 捷 二

今年もまた支部活動の目玉である観桜会を開催したのでご報告します。

まず最初にお断りしておきますが、山形支部の活動は総会資料等で情報提供しているように「春の観桜会」、「秋の芋煮会と支部総会」、「有志のY・G・Cへの参加」が事業活動の三本の柱になっております。

必然的に開催時期が限定されます。これに対して会報『絆』は9月と3月に発行されるので若干ニュースが古くなってしまうのでご容赦願いたいと思います。

また、メーリング・リストへ登録されておられる会員の皆様には『いまを伝える』ということで都度に配信しておりますので（といっても七夕様の牽牛星と織女星の逢瀬のように回数は少ない・・・反省）重複しますがお許し願います。

恒例の観桜会は舞鶴山公園のさくらが満開の四月二十一日（月）に行いました。「天童桜まつり」のメインである人間将棋は四月十九日～二十日盛大に行われました。

十九日はあいにくの雨で市民会館での屋内となったが、翌二十日は好天に恵まれ県外観光客も含め多くの観客で賑わいを呈しました。その風景は昨年度にMLシステムで配信済みなので、ここでは省略します。話は脱線しますが、「人間将棋がなぜ天童で・・・？」の疑問は起こりませんか。その昔、豊臣秀吉が京都・伏見城で小姓や腰元を将棋の駒に見立て「将棋野試合」を行ったという故事がきっかけとなり、一九五六年（昭和三十一年）、桜まつりを開催するようになってから伏見城と天童は遠く離れており直接の関連はないものの古くから天童は将棋駒の生産で知られていることからイベントの目玉にしたということのようです。当時は天童市長らが対局しておりましたが有名になるにつれてプロ棋士をゲストとして招くようになり、一九九二年からはプロ棋士が対局者として指揮をとりイベントを盛り上げるようになり様変わりしたようです。近年、天童市での将棋駒生産量は凡そ百万組（生産額：二億三千万円）と約九十五%を生産しており一組で百万円を超えるものもあるそうです。



さて観桜会に戻りますが、支部会員十二名の内、武田・齋藤（初）・加藤・小座間・斉藤（八）・岸の六名、現役組から沼澤工場長・東海林社長が加わり、更に東京本部支部から三浦巖・北沢三明両会員も観光を兼ねて遠路山形工場を訪問されたので同席して頂きました。

いつもの話題もさることながら、あらたにご両人の話題も加わり大いに盛り上がりを見せたのは言わ

ずもがなです。齋藤（初）幹事の粋な段取りで希望者のみでの歌い放題と飲み放題で二千円ポッキリの二次会もあり、夜の更けるのも忘れ旧交を温めました。毎度思うことだが本当に全会員とも元気そのものです。脱帽し敬礼するのみです。以上で支部の活動報告を終わりにします。